

校長のつぶやき

校長室便り 第43号

令和元年12月13日 山内

○時代を表す言葉 - 今年の日本の漢字一文字「令」と米国の一語「they」 -



今月初旬に発表された今年の「新語・流行語」大賞はラグビーW杯で日本中を沸かせた日本代表の合い言葉「ONE TEAM」が選ばれました。日本代表チームの28名は、11日(水)には東京丸の内中通りでファンに向けた感謝パレードを行い、集まった約5万人のファンに手を振る様子が報道されていました。

岩高2年生の修学旅行隊が先週訪れた京都清水寺で12日(木)今年を表す漢字一文字が発表されました。今年を表す漢字一文字は「令」

でした。理由は、新しい元号令和の令ですね。増税等法令改正の令、コンプライアンス(法令遵守)の令、災害による警報発令や避難命令の令ですね。2位から10位までは、「新 和 変 災 嵐 水 風 天 税」でした。私が思う岩高の今年一文字は「安」「和」「九」です。皆さんはどうか。

海外に目を向けます。米国大手辞書会社が選んだ今年の言葉は they でした。岩高生の皆さんも先生方も they という英語は「複数の人」を指す代名詞で「彼等」という意味だと知っていると思います。中学校1年生で習う必修の単語です。ところが、その常識が変わりつつあります。男女別の単語の代名詞 he 「彼」、she 「彼女」に換えて they 「彼」、「彼女」を単数形で使う動きが広がっているとのことです。このことは、男女の性別にとらわれない第3の性「Genderqueer(ジェンダークィア)や Non-binary(ノンバイナリー)」への配慮からだと考えられています。もちろん they はこれまでも「everybody(みんな)」「somebody(誰か)」といった不特定を指す単数代名詞としても使われてきましたが、「男女の平等」、「性の中立」という観点でここ数年は米国の主要メディアでも単数形の they が使われています。言葉は時代と共に変化していくのだと実感させられました。

余談ですが、日本語で「彼」「彼女」が指すのは「ボーイフレンド」「ガールフレンド」つまり「恋人」であって、男性・女性それぞれ単数の人を指す代名詞で he 「彼」と she 「彼女」という意味で he と she を使うのは、英語の授業時間だけです。しかも今ではほとんど見られなくなった「英語を日本語に訳す」という本当に稀なケースだけだと思います。

今年も20日(金)の終業式まで一週間となりました。無事に令和元年を終え、新しい年を迎えられればいいのですが、9日にNZの白島で火山噴火、12日には北海道で震度5弱の地震がありました。2011年3月11日も数日前の2月22日にNZで大きな地震がありました。私たちは常に備えなければなりません。今年の漢字一字は北海道東部地震、大阪北部地震、島根県西部地震等の「災」でした。おとしは九州北部豪雨等の「北」でした。天災はいつ・どこでも起こり得ます。

ではこれで今回の校長のつぶやきはお終いにします。明日も良い日であるように南の空に願います。

今もなお 源平合戦 冬の空 紅白光る α 星と β 星